

- 1 後藤さんが企画運営を担当した体験プログラム「エコで未来を変える、暮らしのこれから」のひとつコマ（炭作り体験）
- 2 後藤さん自らも壇上に立ち、未来のエネルギーについて講演を行った
- 3 ケアハウスには偶然トヨタOB田中修治さんも入居していた。「働き盛りの世代がこういう場に触れるというのは素晴らしい。トヨタを誇りに思います」と田中さん

1



2



仕事から離れた時間、 異質な組織にどっぷり浸る

環境問題に挑戦するためにトヨタ自動車への入社を決意し、初志貫徹で同社の新型燃料電池の開発に携わる後藤さん。入社以来ほぼ自宅と会社の往復という生活。先輩から叱咤激励を受け厳しい環境で15年ひたすら頑張ってきた。「今年でグループ長になって4年目、課長クラスになって2年目です。ここで自己研鑽休暇を取って自分を見つめ直そうと考えました。多くの人は海外での調査や視察などに利用しているので、私がボランティアをしたと言った時は、そんなところに何しに行くんだと同僚から言われました（苦笑）」。

後藤さんがボランティア活動をしたゴジカラ村とは、特別養護老人ホーム、幼稚園、介護・看護

専門学校などを擁する場所。あえて遠回りを楽しんだり、そこに関わる人たちの多様性を楽しむ『時間に関われない国』を目指している施設である。いわば合理性、効率を追求する一般的な企業とは対

極をなすところだ。そうした施設を選んだ理由を後藤さんに聞くと「環境問題を解決するという理想を実現するために、自動車を何とかしたいという思いでトヨタに入社し、次世代エネルギーの自動車の開発に携わっています。今までは自動車メーカーの開発者という視点でこうした問題を考えてきましたが、ここで、地域社会の視点で環境問題を見直したいと思いい、ゴジカラ村に興味を持ちました」。ゴジカラ村で後藤さんは特別養護老人ホームにおけるお年寄りの介護を経験した。初めての経験に多くの戸惑いと驚きがあったという。「予定していなかったお年寄りの食事の手伝いをしました。最初はまったく受け付けていただけませんでした。辛抱強く何度も語りかけているうちに、やっと心を開いてくださって。心が通った時は本当にうれしかったですね」。

”意識的に後輩を育成”する

ゴジカラ村でのボランティアを経験し、後藤さんは次世代を育てていく重要性を認識した。「園児が私に飛びついてくる園庭の隣では、特別養護老人ホームで毎月1名くらいお年寄りが亡くなる。世代